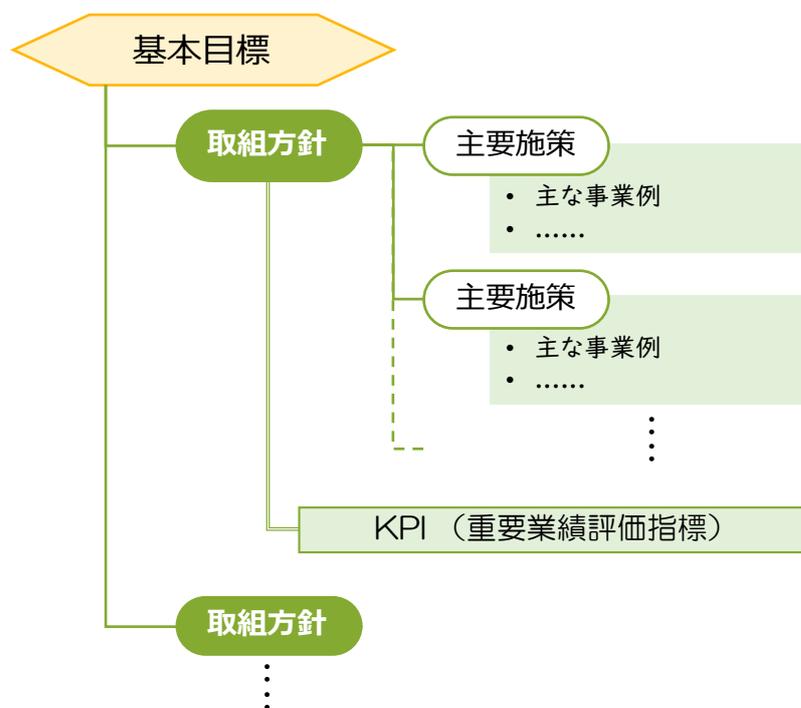


3. 分野別基本計画

分野別基本計画について

分野別基本計画は、6つの分野別の基本目標及び基本目標を達成するための取組方針毎に、主要施策と主な事業例及び取組の進捗を管理するためのKPI（重要業績評価指標）を定めたものです。

- **主要施策**：取組方針に基づいて、分野別を実施する施策
- **主な事業例**：主要施策別の代表的な事業・取り組み
- **KPI（重要業績評価指標）**：取組方針単位で、今後、計画の進捗度合いを評価するための指標



分野別基本計画の構成

基本目標 1 町民が主体的に取り組む、参加のまち

～地域コミュニティ分野～

【現状・課題と今後の方向性】

- 東日本大震災からの復興は、施設復旧・整備などのハード面については概ね目途が立っています。人口についても、平成27年9月の避難指示解除後、町内の居住者人口は、年々増加傾向で推移し、5年を経過した令和2年9月30日には、4,023人、町内居住率は59.4%となっています。
- しかし、帰町者の人口構成は高齢者が多く町内の事業を担う生産人口が不足している、人口が減って行政区での活動が必ずしも十分にできない地区があるなどの課題があり、若い世代の呼び込みや新たな居住者等とのコミュニティづくりといった、ソフト面のまちづくり、移住や定住促進への注力が必要です。
- また、外国人転入者もみられ、その受け入れと生活・就労支援、多様な文化に触れあう機会づくり、広い国際的視野をもった人材育成にも取り組んで行くことが必要です。
- 現在、一般社団法人ならはみらいによる町民参画の機会づくり、仕組みづくりが進められています。町民や事業者、各種団体等が主体的に参加し、問題解決に取り組むまちを目指します。

基本目標 1 の取組方針・主要施策

取組方針	主要施策
[1-1] 新生ならはのコミュニティ 再構築・活性化	① 町民同士のつながり再編・構築と活性化 ② 町外在住町民等とのつながり・交流
[1-2] 町民が主体的に参加し、 つながるまちづくりの推進	① 町民等主体のまちづくり活動への支援体制構築
[1-3] 多くの人を呼び込む魅力的な まちづくりの推進	① 移住・定住促進
[1-4] 魅力ある仕事、余暇を充実 させる“楽しさ”などの発掘	① 余暇を充実させる“楽しさ”などの発掘と発信 ② 若者を呼び込む魅力的な会社・仕事の創出 ③ ならはファン（交流人口・関係人口）の増加
[1-5] 国際交流・外国人転入者の 受入促進	① 外国人の受入環境の整備 ② 外国人就労者の受け入れ

[取組方針 1-1] 新生ならはのコミュニティ再構築・活性化

震災後大きく変化した地域コミュニティについて、行政区以外の企業宿舎等多様なコミュニティも含めて、町民同士のつながりの再編・構築や活性化に取り組みます。また、やむを得ず帰町をしばらく見合わせる町民とのつながり・交流を継続します。

■ 主要施策

① 町民同士のつながり再編・構築と活性化

- 行政区の連携、協働・再編や、情報発信の支援を行うことで、コミュニティ活動の活性化を図ります。
- 町民と事業者がつながる機会を増やすなど、多様なコミュニティづくりに取り組みます。
- 住民主体の「通いの場」（老人クラブ、地域ミニデイ等）を増やし、孤立防止やコミュニティ活動につなげます。

〈主な事業例〉

- ・ 行政区の再編、行政区同士の連携推進等を通じた活性化支援
- ・ 産・学・官と地域のニーズ把握を踏まえた協働・交流の企画・活動支援
- ・ 各種地域コミュニティ活動の活性化支援
- ・ 住民主体の「通いの場」活動推進

② 町外在住町民等とのつながり・交流

- 町外の町民への情報提供などを通じて、つながり・交流や各種支援を継続します。
- 全国に居住する本町出身者との交流や連携の場を設け、外からまちづくりへの助言や支援を行う応援団の確保に取り組みます。

〈主な事業例〉

- ・ ふるさと情報の発信
- ・ 各地の檜葉町出身者が集う「〇〇檜葉町会」の結成促進
- ・ ふるさと応援大使の任命
- ・ 町外の町民に対する福祉サポートの継続
- ・ 転出する町民とのつながりの継続

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基 準 値	目 標 値
行政区への世帯加入率	80% (震災前の加入率)	85%
行政区活動への参加率 ^{1) 3)}	-	毎年上昇
行政区活動への町外在住町民の参加率 ^{2) 3)}	-	現状維持

1) 行政区活動への延べ参加者数（行政区活動実績報告による）÷行政区加入世帯数

2) 行政区活動への町外在住町民の延べ参加人数（行政区活動実績報告による）÷行政区加入世帯数

3) 本計画策定後、参加率を把握する

[取組方針 1-2] 町民が主体的に参加し、つながるまちづくりの推進

町民主体のまちづくりを推進するため、一般社団法人ならはみらいと連携して、協働の体制や仕組みづくりに取り組むとともに、まちづくりにおける町民参加型ワークショップの積極的な展開や、ワークショップでの議論を活性化させるファシリテーター（進行役）となる人材の育成を図ります。

■ 主要施策

① 町民等主体のまちづくり活動への支援体制構築

- 同年代の人、家族構成が似た人、同じ趣味・特技を持つ人や、移住者など似たような立場の人など、同じような事柄に関心を寄せる人々の交流を促進し、自分たちで“やりたいこと”を見出して主体的に取り組み、活動を展開できるよう支援します。

〈主な事業例〉

- ・年代別まちづくり懇談会等まちづくり活動促進
- ・住民主体の各種まちづくりイベント等の開催支援
- ・中学生室の活動継続とOBとの連携
- ・町内事業者のまちづくり活動への参画・連携推進

■ KPI（重要業績評価指標）

指標	基準値	目標値
行政以外の団体が主催するイベントの実施件数	30件／年	50件／年

[取組方針 1-3] 多くの人を呼び込む魅力的なまちづくりの推進

震災により大きく人口が減少した檜葉町の持続・発展のためには、生産活動を担う世代の人口を増やすことが重要です。若い世代を中心に、多くの人々の移住を促進するため、魅力ある子育て環境、経済的支援の仕組みづくり、相談対応、住居等の受け皿づくりなどを強力に推進します。

■ 主要施策

① 移住・定住促進

- 若い世代を中心として多くの人に住みやすい環境があることや、各種支援制度を、わかりやすく情報発信します。
- 移住・定住促進施策として、住宅取得、安価な賃貸住宅提供を支援します。

〈主な事業例〉

- ・ 移住・定住支援制度や魅力ある子育て環境に関する情報発信
- ・ 移住促進のための住宅取得支援
- ・ 様々な手法を活用した移住体験用住居、安価な賃貸住宅の提供
- ・ 小規模農地付き住宅の提供
- ・ 空き家・空き地情報の充実・提供強化
- ・ 二地域居住、U・Iターンの推進
- ・ 移住者が地域に馴染むための受入体制の整備
- ・ 町内企業と連携した移住促進

■ KPI（重要業績評価指標）

指標	基準値	目標値
町の支援策に基づく住宅取得支援数	10件/年	20件/年
檜葉町への定住者数 ¹⁾	80人/年	84人/年 (R3～R7) 88人/年 (R8～R12)

1) 転入者に対するアンケートを毎年実施して把握

[取組方針 1-4] 魅力ある仕事、余暇を充実させる“楽しさ”などの発掘

余暇を充実させるさまざまな楽しみ方・過ごし方の発掘と発信、人を呼び込む魅力的な会社・仕事の創出の環境づくりに取り組みます。また、交流人口の増加に加え、本町に関心のある「関係人口」と呼ばれる地域外の人が地域づくりの担い手となることが期待されます。そうした人材との連携を促進し、魅力的なまちづくりを進めます。

■ 主要施策

① 余暇を充実させる“楽しさ”などの発掘と発信

- 若者が仕事以外の理由で檜葉町での居住を選択したくなるよう、まちの魅力を発掘し磨き上げるとともに、その情報発信に取り組みます。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 木戸川観光地化への取り組み推進★
- 余暇を楽しむスポット・体験型アクティビティの発掘・創造★
- 多機能拠点などを活用したサイクリングコース、ウォーキングコースの整備★
- ウォーキング定着・促進の仕組みづくり
- レンタサイクル等の充実などサイクリングを楽しむやすい環境の整備★
- サイクリング関連イベントの誘致・開催★
- サイクリング関連団体との連携による広報媒体の活用★
- 檜葉町の魅力を発掘・磨き上げ・発信する人材の確保・育成★
- “農”を楽しむ環境の整備★

② 若者を呼び込む魅力的な会社・仕事の創出

- 人気・有望企業の支社やサテライトオフィス・ワーケーションの誘致、従業員を連れて檜葉町に進出できる企業の誘致に取り組みます。
- 自ら人を呼び込む力を持った起業家の誘致と創業の支援に取り組みます。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 「ならばマーケットプレイス」の構築
- 既存公共施設等も活用したコワーキングスペースの整備、サテライトオフィス・ワーケーションの誘致★
- ふるさとテレワークの推進★
- 誘致企業向けPRツールの充実化
- 多様な働き方のあるまちの推進★

- ・起業検討者ネットワークの構築

③ ならはファン（交流人口・関係人口）の増加

- 交流人口の増加、本町に関心のある関係人口との連携の仕組み・機会づくりに取り組みます。
- スポーツを活かした交流人口・関係人口の増加に取り組みます。

〈主な事業例〉

- ・連携、交流促進の仕組み・機会づくり
- ・交流人口・関係人口同士のつながりづくり
- ・転出する町民とのつながりの継続〈再掲〉
- ・スポーツコミッション事業の推進
- ・スポーツのまち檜葉の振興
- ・宿泊受入数の拡大

■ KPI（重要業績評価指標）

指標	基準値	目標値
サイクリングターミナルでの合宿の リピート割合（再度合宿に来る割合）	5割	7割
ならは応援団の団員数	813人	転出者の 30%加入 ¹⁾
町内の新規起業件数 ²⁾	20件/年	30件/年

1) 転出者に対してならは応援団への加入を働きかけ

2) 年間の法人設立届出件数+青色申告増加件数

[取組方針 1-5] 国際交流・外国人転入者の受入促進

様々な形の国際交流を促進し、外国人旅行者はもとより、外国人の留学生、外国人転入者等を受け入れるための環境整備や共生意識の醸成を図ります。

■ 主要施策

① 外国人の受入環境の整備

- インバウンド回復に伴う外国人観光客の増加や外国人就労者の増加を見据えて、各種案内板・標識などの外国語表記化を推進するなど、外国人にも暮らしやすい環境づくりに取り組みます。
- 国際交流の窓口を設置し、新たな国際交流への取り組みを推進するとともに、外国人転入者等への情報提供・交流の機会提供等を行って、外国人が町の暮らしに馴染み、地域の一員となって生活することを支援します。

〈主な事業例〉

- 標識・サインへの外国語表記の推進
- 国際交流に関する窓口や官民が連携した体制の設置

② 外国人就労者の受け入れ

- 在留資格「特定技能」を取得した外国人など、外国人就労者の募集・受け入れについて検討します。また、ワーキングホリデーなどの形で、海外の若者等との交流に取り組みます。

〈主な事業例〉

- 外国人の募集・受け入れの検討
- ワーキングホリデーへの取り組み

■ KPI（重要業績評価指標）

指標	基準値	目標値
外国人来訪者による町の評価 ¹⁾	—	好評価の割合 80%
外国との交流イベント数	—	年2回
町内の外国人居住者数 ²⁾	49人 (R2年10月)	100人

1) イベント等で実施するアンケートによる

2) 外国籍の方の住民登録数

基本目標 2 学びを楽しみ、「ちから」と豊かさにつなげるまち

～教育・文化分野～

【現状・課題と今後の方向性】

- 原子力災害により避難先の仮設校舎で再開されたこども園と小・中学校は、町内での教育を再開し、英語教育、キャリア教育など特色ある教育を進めています。また、檜葉南小学校の校舎を利用した「檜葉まなび館」が生涯学習の拠点となり、みんなの交流館「ならはCANVAS」でも各種教室・ワークショップ等が開催されて、各種文化活動が徐々に再開されつつあります。震災のため中断していた地域の祭など、伝統的な行事も、一部は再開されています。
- 町の重点施策のひとつである「魅力ある教育」は、地域や大学などと連携しながらさらに推進していくことが求められ、それを積極的に情報発信して若い世代の移住促進につなげることも期待されています。また、小学校を統合して檜葉南小学校校舎へ移転することが決定しているため、「檜葉まなび館」に代わる新たな生涯学習拠点の構築が必要です。さらに、これまでの「ふるさと檜葉」の歴史・伝統・文化の保護、継承、活用を推進することも重要です。
- これまで推進してきた「魅力ある教育」をさらに推し進めるとともに、生涯学習の環境構築、歴史・伝統・文化の保護、継承、活用を推進することで、幅広い世代が学ぶことを楽しみ、生きていくための「ちから」を身に付け、生活の豊かさを享受しながら暮らしていけるまちを目指します。

基本目標 2 の取組方針・主要施策

取組方針	主要施策
[2-1] 子どもの「ちから」を伸ばす教育の推進	① こども園・小学校・中学校の一体的・連続的な教育 ② 将来を切り拓く力を身に付ける、特色ある教育の推進 ③ 地域や大学などと連携した地域学校協働活動事業の推進 ④ 魅力ある教育の情報発信
[2-2] 生活を豊かにする生涯学習の環境構築	① 新たな生涯学習拠点の構築 ② 生涯学習活動の活性化
[2-3] 「ふるさと」の歴史・伝統・文化の保護、継承、活用の推進	① 歴史・伝統・文化の保護、継承 ② 歴史・文化の継承活動推進・人材育成 ③ 東日本大震災・原発災害の経験継承

[取組方針 2-1] 子どもの「ちから」を伸ばす教育の推進

こども園・小学校・中学校各1校園となること、少人数学級であることなど、まちの教育環境の特色を活かし、きめ細やかな教育で、子どもの個性に応じた能力を引き出し、自らの将来を切り拓く力を身に付ける、特色ある教育を推進します。地域や大学などとの連携にも取り組み、地域全体・社会全体との関わりの中で教育を展開します。

また、「魅力ある教育」を積極的に情報発信し、町外からの就学促進、さらには町外から檜葉町への移住促進へとつなげます。

■ 主要施策

① こども園・小学校・中学校の一体的・連続的な教育

- 小中連携による9年間の学びを超えて、こども園・小学校・中学校連携により、幼少期からの切れ目ない継続した学びを推進します。
- ICT（情報通信技術）を活用した家庭学習・放課後学習の支援、メンター制度の導入など、一人ひとりに対するきめ細やかな取り組みにより、学力と「生きる力」を育みます。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- こども園・小学校・中学校連携による連続的な英語教育の推進
- こども園・小学校・中学校連携による教育内容・学習到達目標の設定
- ICT（情報通信技術）を活用した家庭学習・放課後学習支援
- 一人ひとりをサポートするメンター制度の導入★

② 将来を切り拓く力を身に付ける、特色ある教育の推進

- 小中学校では、英語教育、ICT（情報通信技術）を活用した教育、キャリア教育、国際人教育など、既に実施中の枠組みを超えた新たな「特色」ある教育に取り組みます。
- こども園では、英語教育、安田式体育の実践に加え、Jヴィレッジでのサッカー体験教室を始めとする園外保育などを活用し、さらなる幼児教育の充実を図ります。
- 少人数教育のデメリットを補うため、他地域との連合で行う部活動、学習活動などについて検討します。直接的な交流だけでなく、オンラインなども活用することで、新たな交流の機会が生まれることも期待されます。

〈主な事業例〉

- 幼児教育の充実とこども園の体制強化
- I C T（情報通信技術）を活用した教育の推進
- 公設民営塾の設置★
- 中学生起業体験キャリア教育の推進
- 地域を担う人材の育成
- アカデミー福島再生による国際人教育の推進
- 学校における放射線教育の継続

③ 地域や大学などと連携した地域学校協働活動事業の推進

- 地域住民のボランティア等による放課後学習、地域産業と連携した教育、子どもと高齢者が交流する機会づくりなどに取り組みます。
- 大学などと連携した学びの場を構築し、最先端の知見や高度な研究成果などを活かして科学の目を養うなど、子どものやる気や関心を引き出す教育を推進します。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 教育ボランティア等の養成
- 多世代が共生する拠点づくり
- 国際教育研究機関を始めとする高等教育研究機関の誘致
- 東京大学総合研究博物館と連携した学びの場の構築★
- 地元農家・地元企業、J A E A（日本原子力研究開発機構）等と連携した教育★
- 学校と連携した体験型農地の整備、学校農園の再開★
- 福祉教育の推進
- スポーツ協会・近隣町と連携した運動種目の増加
- 「教えたい人」と「学びたい人」のマッチング支援（人材マッチング、公共施設等場所の提供など）★

④ 魅力ある教育の情報発信

- 上記のような「魅力ある教育」を積極的に情報を発信し、町外からの就学促進、さらには町外からの檜葉町への移住促進へとつなげます。

〈主な事業例〉

- 魅力ある教育を紹介するコンテンツ作成
- 魅力ある子育て環境の情報発信〈再掲〉

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基 準 値	目 標 値
こども園、小・中学校における外部講師による授業種類数	こども園 5～6種 小中学校 15～20種	こども園 10種 小中学校 15～20種
こども園における皆勤賞・精勤賞の割合	10%	20%
小・中学校で「学校が楽しい」と回答した児童・生徒の割合 ¹⁾	－	90%
小・中学校で、学力レベルが上がった児童・生徒の割合 ²⁾	－	80%

1) 児童・生徒へのアンケートによる

2) 「ふくしま学力調査」教科（国語、算数・数学）のいずれかの学力レベルが上がった児童・生徒の割合

[取組方針 2-2] 生活を豊かにする生涯学習の環境構築

旧南小学校校舎に設置されていた「まなび館」の役割を引き継ぎ発展させた、新しい生涯学習拠点を構築し、さまざまな立場の町民、町内居住者が参加し、自発的に学びを楽しみ、心豊かな毎日を送れるよう、生涯学習活動の活性化を図ります。

■ 主要施策

① 新たな生涯学習拠点の構築

- 公民館の再開などを通じて、旧南小学校校舎に設置されていた「まなび館」の役割を引き継ぎ発展させた、新たな生涯学習拠点を構築します。
- コミュニティセンターにある図書室の機能拡充などを通じて、まちの至るところで本に親しむことのできる環境づくりに取り組みます。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 公民館機能の再開、コミュニティセンターの利便性向上
- 本に親しむ多様な環境づくりの推進★

② 生涯学習活動の活性化

- 地域や大学などと連携しながら、生涯学習活動を推進します。
- 生涯学習活動の成果を展示・販売するような機会を設けて、活動の活性化を図ります。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 生涯学習活動の活性化・支援★
- 生涯学習活動に関する成果発表の場の提供

■ KPI（重要業績評価指標）

指 標	基 準 値	目 標 値
檜葉市民大学の受講者数 (複数講座受講者含む)	44 人	55 人
生涯学習活動の成果の発表件数	—	発表会等での発表活動 20 件 展示会等への出品 280 件

[取組方針 2-3]「ふるさと」の歴史・伝統・文化の保護、継承、活用の推進

まちの歴史・文化に関わるさまざまな資源を掘り起こし、地域文化を担う各種活動を支援します。また、東日本大震災・原発災害の経験も被災地特有の文化にとらえ、継承していきます。

■ 主要施策

① 歴史・伝統・文化の保護、継承

- 歴史・文化に関わるさまざまな資源を掘り起こし、ふるさと檜葉の継承を図ります。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 天神原湿原の再生
- 文化財の保護・保管、埋蔵文化財等の調査の推進
- 檜葉町の方言調査研究の実施、昔話の収集・伝承
- 東京大学総合研究博物館モバイルミュージアムの設置
- 歴史資料館のリニューアル
- 檜葉城など未指定文化財で保護活用の必要な文化財の選定・指定化
- 遺跡等の文化資源のツアーコンテンツ化★

② 歴史・文化の継承活動推進・人材育成

- まちの歴史を後世に伝え、地域文化を担う各種活動を支援するとともに、これを担う人材を育成します。

〈主な事業例〉

- 文化団体連絡協議会の再開・活性化
- 研究会設置などを通じた地域文化継承活動の推進

③ 東日本大震災・原発災害の経験継承

- 東日本大震災・原発災害の経験から得た教訓や知恵を、本町特有の文化のひとつとして、後世へ伝承していきます。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- 町と町民に関する災害対応記録の継続的収集
- 災害記録誌の発行
- 「語り部」の活動支援、「語り部」の映像記録作成
- 復興情報のアーカイブ作成と情報発信
- ホープツーリズムの推進★
- 歴史資料館を活用した災害伝承の展示

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基 準 値	目 標 値
歴史資料館の見学者数	-	500 人／年
伝統行事の再開数 ¹⁾	7 件	17 件

1) 鳥小屋、浜下り行事、じゃんがら念仏踊り、笠踊り、盆踊りの再開・新規開催件数

基本目標 3 誰もが元気に、はつらつと暮らすまち

～健康・スポーツ・医療分野～

【現状・課題と今後の方向性】

- 町内や近隣町で医療機関の再開・開設が進むなど、医療体制が再構築されてきました。また、Jヴィレッジ再開、ならはスカイアリーナ新設など、スポーツ施設も従来以上に充実しています。さらに、スポーツを通じたまちづくりを担う中心組織として、檜葉町スポーツコミッションが設立されました。
- 町民一人当たりの医療費や生活習慣病患者は増加傾向にあり、高齢化も進んでいることから、健康づくりを推進し、町民の健康寿命を延ばすことが必要です。さらに、充実したスポーツ環境を活かして町外から人を呼び込み、地域振興につなげることも求められています。
- 健康づくりの推進のため、さまざまな情報・サービスを利用できる環境をつくるほか、健康を意識して自ら健康づくりに取り組む町民を育成し、心身の健康対策、放射線健康管理や、新たな課題となっている感染症対策に取り組んでいきます。また、東日本大震災前に盛んに開催されていた各種スポーツ大会など、まちの特徴であるスポーツへの取り組みをより一層推進し、町民はもとより町外から訪れる方も、誰もが元気に、はつらつと輝いているまちを目指します。

基本目標 3 の取組方針・主要施策

取組方針	主要施策
[3-1] みんなが生き生き、心と身体 の健康づくりの推進	① 健康維持・健康管理の環境整備 ② 日常生活における健康の維持・増進 ③ 心の健康対策の推進 ④ 放射線健康管理の推進 ⑤ 感染症予防対策の着実な継続実施
[3-2] 気軽に楽しむ生涯スポーツの 推進	① 重点スポーツ種目「広義のサッカー」の普及拡大 ② 生涯スポーツの推進
[3-3] スポーツを活かした地域振興 の推進	① スポーツコミッションによる地域振興 ② スポーツツーリズムの推進による地域振興

[取組方針 3-1] みんなが生き生き、心と身体健康づくりの推進

健康維持・健康管理に関わるさまざまな情報・医療サービス等の利用、日常生活の中で健康の維持・増進を図るとともに、生きがいを持って生き活きと暮らせるよう、心の健康対策、放射線健康管理を推進します。

また、インフルエンザ、風疹、新型コロナウイルスなど、細菌・ウイルスによる各種感染症対策を推進します。

■ 主要施策

① 健康維持・健康管理の環境整備

- 健康づくり推進のため、さまざまな情報提供を行うとともに、健康診断など予防医療を含め各種医療サービスを利用しやすい環境づくりに取り組みます。

〈主な事業例〉

- 二次医療体制の充実、一次・二次医療連携の強化
- 妊産婦、乳幼児に対する健診、相談体制の充実
- 子どもの医療費・検診費用の無料化、健康相談等の実施
- がん検診を始めとする定期的な健康診断、健康管理調査の充実・強化
- 遠隔地居住者の健診機会の確保
- 幼児から高齢者まで連続した「健康教育」の推進
- 健康・生きがいづくりに関わるイベントの開催

② 日常生活における健康の維持・増進

- 生活習慣病等の予防・改善に向けて、日頃から健康を意識して自ら健康づくりに取り組む町民が増えるよう、人材育成や環境整備に取り組みます。

〈主な事業例〉

- 健康づくり推進のための保健計画に基づく健康づくり事業の推進
- 健康づくりに関する人材の育成・確保
- 予防医療・介護福祉を含む総合的・先進的地域医療の推進
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施
- ウォーキング定着・促進の仕組みづくり 〈再掲〉

③ 心の健康対策の推進

- それぞれの町民が、社会の中で役割や生きがいを持ち、生き活きと暮らせるよう、孤立防止、生きがいづくりなど、心の健康対策を推進します。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- ・孤立防止のコミュニティ支援
- ・生きがいつくりと一体化した健康管理・ケアの推進
- ・健康づくり、生きがいとしての“農”の推進★
- ・心のケア対策

④ 放射線健康管理の推進

- 原発事故の教訓を忘れず、放射線・放射能・放射性物質に関する正しい知識を広めるとともに、放射線健康管理を推進します。

〈主な事業例〉

- ・各種健康活動における放射線教育・啓発、リスクコミュニケーション実施
- ・有識者による放射線健康・安全の継続的な確認・検討の実施
- ・上水道、公共施設等の放射性物質モニタリングの継続
- ・希望者に対する個人被ばく線量測定の実施

⑤ 感染症予防対策の着実な継続実施

- 新型コロナウイルス感染症を始め、新たな課題となっている感染症の予防対策について、着実かつ継続的に実施していきます。

〈主な事業例〉

- ・マスク、消毒薬剤、ハンドソープ等の感染症対策物品の計画的備蓄
- ・風疹、肺炎球菌などの予防接種の推進
- ・感染症予防に関する啓発活動の実施

■ KPI（重要業績評価指標）

指標	基準値	目標値
「幸せ度」7以上の人の割合 ¹⁾	55.6% (R1年度)	70%
国民健康保険医療費の県内順位	4位 (H30年度)	20位
特定健康診査（特定健診）の受診率	48.6% (R1年度)	90%

1) 総合健診時のアンケートによる

[取組方針 3-2] 気軽に楽しむ生涯スポーツの推進

フットサル等も含む「広義のサッカー」を重点スポーツとして普及拡大するため、「する・みる・ささえる・たのしむ」ためのさまざまな取り組みを推進します。また、さまざまな種目に対する町民のニーズに応え、多種多様なスポーツと交流の機会を提供します。

■ 主要施策

① 重点スポーツ種目「広義のサッカー」の普及拡大

- サッカーに加え、フットサルやウォーキングサッカー、ブラインドサッカーも含めた「広義のサッカー」を重点スポーツ種目に設定し、その普及拡大のため、「する・みる・ささえる・たのしむ」ためのさまざまな取り組みを推進します。

〈主な事業例〉

- 「広義のサッカー」に関する教室・イベント等の開催
- いわきFCの応援を通じたコミュニティづくり

② 生涯スポーツの推進

- さまざまな種目に対する町民のニーズに応えるため、Jヴィレッジ、ならはスカイアリーナ、檜葉町総合グラウンドなどのスポーツ関連施設を活用し、多種多様なスポーツを推進し、交流の機会を提供します。

〈主な事業例〉

- 多種目のスポーツ教室・イベント、運動会など、スポーツ活動メニューの充実
- 気軽にスポーツにアクセスできる仕掛けづくり

■ KPI（重要業績評価指標）

指標	基準値	目標値
檜葉町スポーツ協会等による スポーツイベント参加者数	1,030人/年	2,000人/年
運動習慣がある人の割合 ¹⁾	57.6% (R1年度)	70%

1) 総合健診時のアンケートによる

[取組方針 3-3] スポーツを活かした地域振興の推進

スポーツコミッションにより、スポーツを通じた地域振興を推進する体制を確立するとともに、充実したスポーツ環境と各種観光資源を活かし、町内外から人を呼び込むスポーツツーリズムを推進します。

■ 主要施策

① スポーツコミッションによる地域振興

- 檜葉町スポーツ協会内に設立したスポーツコミッションにより、スポーツを通じた地域振興を推進する体制を確立します。

〈主な事業例〉

- スポーツコミッション事業の推進 〈再掲〉

② スポーツツーリズムの推進による地域振興

- J ヴィレッジ、ならはスカイアリーナ、総合グラウンドなど町内にある充実したスポーツ環境と、木戸川渓谷、天神岬スポーツ公園などの各種観光資源を活かし、町内外から人を呼び込むスポーツツーリズムを推進します。

〈主な事業例〉

★印：チャレンジプロジェクト関連事業

- スポーツツーリズム商品の開発・販売促進★
- 多機能拠点などを活用したサイクリングコース、ウォーキングコースの整備★ 〈再掲〉
- レンタサイクル等の充実などサイクリングを楽しみやすい環境の整備★ 〈再掲〉
- サイクリング関連イベントの誘致・開催★ 〈再掲〉
- サイクリング関連団体との連携による広報媒体の活用★ 〈再掲〉
- 天神岬スポーツ公園の利用促進に向けた整備
- 合宿の誘致
- 合宿誘致に向けた受け皿の整備
- 宿泊型新保健指導「スマートライフステイ」の実施

■ KPI（重要業績評価指標）

指 標	基 準 値	目 標 値
スポーツコミッションによる各事業の参加者数	約 500 人 (／7 ヶ月)	3,000 人／年
スカイアリーナの年間利用人数	44,000 人／年 (R1 年度)	毎年、前年を上回る